

IV あとがき

1 あとがき

○ 施策調査専門委員会の検討過程について

本点検結果報告書を作成するにあたり、施策調査専門委員会で議論した内容や意見等については、P12-2～4のとおりまとめる。具体的な検討状況については、県水源環境保全課ホームページで掲載している。

2 平成 29 年度 施策調査専門委員会の検討内容

● 主な議題・議論

開催回	開催日	主な議題・議論
第 40 回	H29. 7. 25	<p>1 役員選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 委員長には吉村委員（東京工業大学准教授）が選任され、副委員長には吉村委員長より土屋委員（東京農工大学大学院教授）が指名された。 <p>2 施策調査専門委員会のこれまでの取組状況ならびに今後の検討スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当委員会の所掌事項、前期委員会からの引継事項を確認した後、今年度の専門委員会開催スケジュールを確認した。（年 3 回開催予定：7 月・10 月・翌年 1 月） <p>3 平成 28 年度のモニタリング調査結果報告ならびに点検結果報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林のモニタリング調査について、森林内における窒素循環のデータや森林の炭素量など、数字が出れば経済評価が出来るような項目もある。今後検討してみてもどうか。 ○ 合併処理浄化槽の設置による効果を評価するのであれば、もう少し設置した箇所の付近に調査地点を設けた方がよい。 <p>4 水環境モニタリングの見直し検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「良質な水」に関して、山での水質、川での水質、水道水としての水質、それぞれレベルが違うはずだが、それらを一緒くたにして議論している気がする。今後、議論するときは、その違いを意識して議論する必要がある。 ○ 環境省が新しい水環境の評価方法というものも出している。それは水質だけではなく、水へのアクセスのしやすさといった項目も入っていたかと思う。そういうことも検討していくとよいのではないか。
第 41 回	H29. 10. 27	<p>1 モニタリングの見直し検討報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業進捗に合わせて、植生モニタリングから林分構造モニタリングへ移行する。 ○ 森林整備事業モニタリングとシカ関係モニタリングの調査地点や調査項目が重複していることから、見直しを行い調査地点の整理・統合等を行う。 ○ 行動範囲の広い鳥類・哺乳類について、検証手法の再検討を行う。 ○ 土壌動物と密接な関係のある森林土壌の調査を新たに実施する。 ○ 水関係事業の効果検証のため、河川モニタリング調査の調査地点の追加や内容等の見直しを行う。 ○ 特別対策で実施しているモニタリング調査だけでなく、県の他機関や、他県、国などのデータ・調査結果も活用しながら、もっと広い視野で考えて欲しい。例えば、ダム湖の流入調査については、ダム管理者からのデータも活用すべき。 ○ 次年度以降のモニタリング調査については、事務局からの報告のとおり一部見直しを図り、実施することで了承する。 <p>2 特別対策事業の点検結果報告書（第 2 期・平成 28 年度版）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 良質な水の安定的な確保、という水源施策の評価にふさわしい指標でなくてはならない。説明を聞く限りは、施策の効果を測る指標にはならないのではないか。 ○ アユの遡上量が改善されたと言っても河川環境が改善された結果ではないので、誤解のないような表現にすべき。 ○ 「はじめに」の章の冒頭に、この施策の目的や施策大綱、実行 5 年計画などについてふれておく必要がある。それがないと、何のためにこの施策をやっているのか、どういう視点で評価していくのかがはっきりしない。

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 5～9番事業は市町村への補助事業となるが、補助事業となっている経緯や県と市町村の役割分担など、県事業と市町村事業の考え方について解説があった方がよい。 ○ 「一次的アウトカム」とか、「二次的アウトカム」といった用語の説明があったほうが良い。 ○ (1番、3番事業総括の中で) 溪畔林事業の成果を私有林に広げていくとあるが、国有林、県有林はどうするのか。もちろん国有林は関係ないと思うが、一般県民にはその辺りは分からないのだから、もっと丁寧に書くべき。 ○ 6番事業で活用している「評価シート」がどのようなものか知りたい。HPでもよいのでどこかに載せて欲しい。 ○ 「全体の総括」の内容はこれでよいと思うが、森林の2次的アウトカムの記載について、若干、語句の掛かり具合がおかしい箇所があるので、修正が必要。 <p>3 特別対策事業の点検結果報告書(第3期版)の構成見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見直しを図ることで、単年度の報告書としては、ボリュームが小さくなるが、情報を出さなくするわけではなく、削除したものは県のホームページなど別の形でアクセスできるようにするというでよい。 ○ 見直しの考え方の中で、高次の評価は毎年度の点検評価では行わないとしているが、それでよいか、今後議論が必要。
第42回	H30.1.31	<p>1 特別対策事業の点検結果報告書(第2期・平成28年度版)(案)及び同概要版(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度に対応した内容を平成28年度実績版に載せるのも、未来に向かって改善の取組をしていることなので、時点については、あまりこだわる必要はない。 ○ シカの話は重要で、総括本文のどこかに盛り込みたい。 ○ 「税投資の効率性」という記載は、シカ対策に限った話ではなく全ての事業に関わる問題であるため、1番事業の総括に出てくるのは不自然。全体の総括に記載するのが妥当。 ○ シカ対策は丹沢大山に限った問題ではなく、森林整備全体に係る問題であるため、1番事業の総括に記載し、2番事業に記載の案については、個別意見として扱う。 ○ 全体の総括の構成変更について、並び替えを行うことで読みやすくなった。構成の変更については問題ない。 ○ 全体総括の②アウトプットの冒頭で、事業量と予算の執行状況についても触れた方がよい。 <p>2 特別対策事業の点検結果報告書(第3期版)の構成見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 報告書の見直しと併せて県のホームページのメンテナンスも行う必要がある。 ○ 今回の見直し方針に関する説明(毎年点検結果報告書では、アウトプットと1次的アウトカムを中心に掲載し、2次的アウトカムや最終的アウトカムに関しては、中間報告でまとめる。など)を『I はじめに』の「点検結果報告書の作成方針」に記載する。 ○ 本報告書に県民会議委員の意見が掲載されている旨を明記いただきたい。 ○ 新規必要額という表現は分かりづらいので、「一般会計」や「特別会計」など分かりやすい表記に変更する。 ○ 『IV あとがき』に関連ホームページのリンク集を掲載する。 <p>3 中間評価に向けた対応検討、平成30年度の委員会開催スケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、色々な森林の生態系サービスが貨幣評価出来るようになっており、(第2期に実施した)CVM方式で実施しないといけないということはない。林野庁でも事業評価マニュアルを作成しているので、内容を確認いただき、是非、第3期での経済評価の実施について検討いただきたい。

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回と同じ手法であれば原案のとおり実施しない方針が良いと考えるが、他に有効な手法があれば検討するのが良い。 ○ 前回の調査結果に関してもあまり知られていないため、少なくとも委員の方には周知する必要がある。その上で、第3期の実施について議論するのが良い。また、前回調査を実施した際にも様々な検討を行っているので、その時のサマリーなども情報提供した上で議論する必要がある。 ○ 調査の規模や予算の話もあるので、来年度はまずは準備（経済評価の実施についての検討）という形で進めたい。 ○ ワークショップのねらいとして、①事業の成果を県民に説明するという側面と②第4期に向けてどのように事業展開するかについて、県民会議委員だけではなく県民に呼びかけて議論するという側面があり、それを考慮すると、平成30年度に実施するのは妥当。 ○ 内容については、どのような方法で何に焦点をあてて実施するかについて議論が必要。スケジュールも含め、叩き台となる資料を事務局に準備いただき、検討については早い時期に行っていく必要がある。 ○ ワークショップの実施にあたっては、施策調査専門委員会のメンバーだけではなく、前回同様、横断的な構成にして実施できると良い。 ○ ワークショップ開催の周知に関しては、これまでの周知先に加え、丹沢大山再生委員会や県立都市公園など別チャンネルで関連のある団体や組織へも周知いただきたい。 <p>4 河川のモニタリング調査（河川の流域における動植物等調査）の調査計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回説明いただいた調査方針で来年度調査を実施いただきたい。